

# 高向小学校(5年1組)間伐体験 (日野・K様所有林にて)

2016年11月18日(金)

## 森の働き

森林には色々な働きと役割があります。第一に木材の生産です。日本の家づくりには、家屋の枠組み、柱、梁などに、多くの木材が使われます。木のぬくもりを感じさせる家具や玩具、また最近では、木材チップやペレットなどを利用したバイオマス発電の燃料としても注目されています。

次に、森林には災害を防ぎ国土を守る働きがあります。森林土壌は、雨水をためて川下への流出を遅らせて、水量を一定に保って洪水や水不足を緩和します。

健全な森林は、樹木が土中に根をしっかりと張って、山崩れなどの災害を防ぎます。背の高い木々の下に低木やシダ類などの下草が地表を覆い、大雨による侵食と流出を防いでいます。手入れができていないと、陽の光が届かない暗い森林となり、下草が十分育たず地表がむき出しになってしまいます。下草類が十分育った森林では、土中生物、キノコ、昆虫、鳥類など様々な生物が生育する豊かな自然環境(生態系)が生まれます。

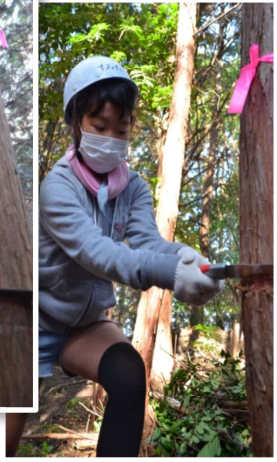


## ロープ上げに挑戦





# 初めての間伐体験



## 年輪のはなし

木の断面に見える同心円の模様を「年輪（ねんりん）」と言います。木の皮をはいだ時に現れる白い部分が「年輪」のもとになります。この部分は「形成層」と呼ばれ、外側に樹皮を作り、内側には木の幹となる部分を作ります。春から夏にかけて気温の暖かい時期には、成長が進み色の白い柔らかな部分となり、夏以降は成長がおそくなり硬くて色の濃い部分になります。この部分が「年輪」になるのです。「年輪」は木の中心が古く、外側ほどあたらしくなります。

